

【みらい平地区新設中学校建設工事基本設計概要書】

学校全体が学びの場となる空間づくりで、新しい時代の学びを実現

生徒が毎日ワクワクして学べる学校

新学習指導要領で示された新しい時代の学びを実現するために、生徒の主体的な学びを導き、様々な交流を通じて社会性を身につける場づくりが必要です。

学びと交流のシンボル空間「みらいコモンズ」、そして様々な学習形式にフレキシブルに対応できる「ユニット型教室」。この2つの提案による学校全体が学びの場となる空間づくりで、新しい時代の学びを実現し、生徒が毎日ワクワクして学べる学校をつくりま

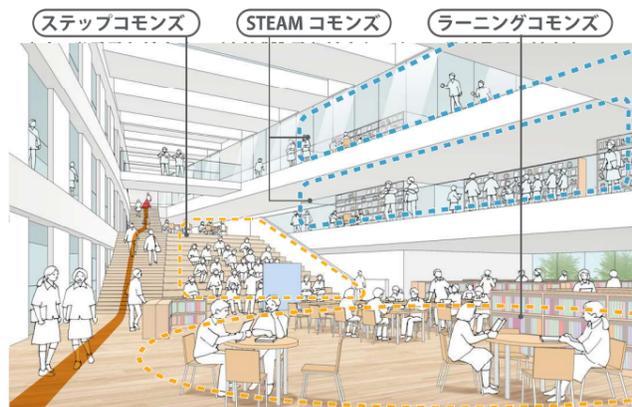


●地域に開き、生徒を迎える外観のイメージ

学びと交流の学校のシンボル空間「みらいコモンズ」

学びを活性化する三つの空間連携

- 学びの中心：「ラーニングコモンズ」 [2F]
- 深める空間：「STEAMコモンズ」 [特別教室]
- 伝える空間：「ステップコモンズ」 [各階をつなぐ]



●連携する三つの空間のイメージ

学習機会を生む(学びの中心ラーニングコモンズ)

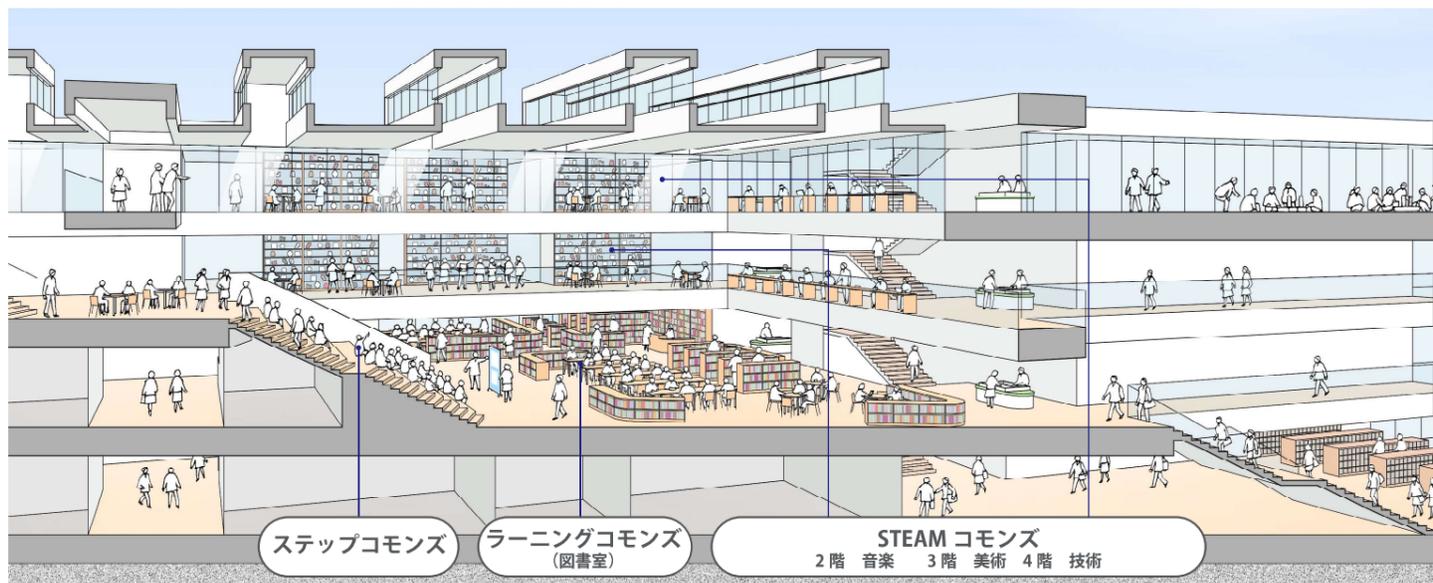
- ① ラーニングコモンズを学校の中央に配置
- ② 気軽に図書に触れられる「オープンな図書室」
- ③ 見せる書架デザインで、興味を誘発する書架

伝える力を磨く(ステップコモンズ)

- ① 学習成果や部活の表現の場
- ② 日常動線に居場所と交流



●交流を生むステップコモンズ



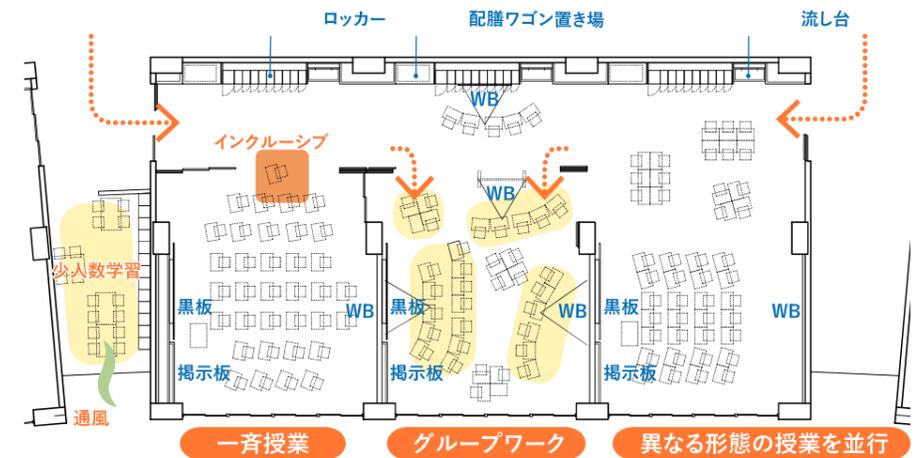
ユニット型教室：みらい志向の学校づくり

大規模校でも安心して過ごせるユニット型教室

- ① 生活拠点の落ち着きを確保：3教室1ユニットが大規模校でも安心できる生活環境
- ② 教師の目配りが可能な規模：1ユニット100名程度、生徒の様子がわかり、教師間連携にも有効
- ③ 廊下と一体の教育空間：アクティブラーニングを可能にする、騒音区画、空調区画

アクティブラーニングを実現する教室づくり

- ① フレキシビリティ：ソーシャルディスタンス、将来の授業形態の変化に対応
- ② 壁面を確保した教室：前面だけでなく黒板面、ホワイトボード面により多様な学習内容に対応
- ③ ICT環境の充実：将来的な増設を含めた通信・電源環境を整備し、ICT環境の充実



●ユニット型教室の紹介(アクティブラーニングの授業風景例)

地域活動や生涯学習の拠点としての学校づくり

地域開放しやすい学校計画

- ① 開放施設を集約・専用の開放用玄関で単独利用・管理を可能
- ② 体育館とみらいひろばの連携、防災・投票所・地域イベントに有効



●明確に区分され使いやすい一般開放エリア

